

# ANNIVERSARY



## 千歳市はたちのつどい

市は1月12日、若者の20歳の節目をお祝いする式典「はたちのつどい」を開催しました。式典には男女約600人が参加。会場の北ガス文化ホールは振り袖やフレッシュなスーツに身を包んだ若者たちで埋まり、華やかな雰囲気に包まれました。



大会議室にはフォトスポットを設置し、記念写真のチェキをプレゼント。旧友と肩を並べてポーズ。次にスーツを着て会うのは、お互い社会人になったときでしょうか。



この日のために用意した色とりどりの振り袖を着こなす女性たち。会場を華やかに彩ります。中には着付けやメイクをセルフコーディネートする人も。

## 誓いの言葉

式典を企画した「はたちのつどい協働会議」のメンバーが、誓いの言葉を読み上げ。家族や友人、地域の人々へこれまでの感謝を述べつつ、これからも学び続け、挑戦し続けることを約束。「あたりまえの日々の大切さを心に刻みながら、これからの人生を力強く歩いていくことを誓います」と宣言しました。



今回集まった若者は、平成16～17年に生まれた世代。中学卒業を前にコロナ禍の時代となり、友人と自由に会うこともままならない日々が続きました。だからこそ、制限なしに旧友との再会を喜び合えるこの瞬間は、一生忘れられない思い出となったことでしょう。



## はたちのつどいのテーマ “報恩謝徳” に込められた思い

報恩謝徳。協働会議の3人がテーマに選んだのは、受けた恩義や徳に感謝し、報いるという意味の四字熟語だ。

3人は幼稚園からの幼なじみ。今でも千歳市青少年教育財団のボランティアを共にするほどの仲である。

そんな彼らに、コロナ禍は突然訪れた。2020年の初め、中学卒業を目前にしたときのこと。学校に突然行けなくなり、卒業式は中止。友達や先生にも会えないまま、不完全燃焼のように卒業した。「そういう経験をした世代だ

から、それまで当たり前だと思っていた日々感謝しよう」と3人で話して、この言葉を選びました」（安中さん）

3人での協働会議運営は、近年まれに見る少人数。学校も別々で、集まれる日はわずか。しかもパンフレット作成、動画制作など、やることは山積みだ。それでも、この経験が彼らを成長させた。

「自分にとっていい経験になったし、千歳市のためにもなって一石二鳥でした」と岩田さんは振り返る。何より、旧友に久々に会

ることは、格別の喜びだ。「私は中学が一番楽しかったと思うし、大人になって結婚式をしたとしても、やっぱり『呼びたいな』って思うのは中学のときに仲が良かった子たちだから」（干場さん）

大人になった決意を安中さんはこう話す。

「何が起ころかわからない社会の中で、コロナを通じて経験したありがたみや人とのつながりを、これからも大切にしていきたいです」



協働会議メンバーの3人  
左から岩田さん、安中さん、干場さん